

川西・梅が丘地域 自主防災だより

Vo1.63

2023.04.01 発行

川西・梅が丘地域づくり委員会
防犯防災部会会長発行
編集：地域自主防災隊

30年から50年以内に南海トラフ巨大地震は必ず発生する!?

先月3月11日、東日本大震災発生から12年が経過し被災地では復興に向けた活動が今も続いているとメディア等で頻繁に目にいたします。

私的にはまだつい最近の出来事のように感じております。

そして2月6日トルコ南部で発生したトルコ・シリア巨大地震！

死者・行方不明者数はなんと5万2千人以上、東日本大震災での約1万8千人の死者・行方不明者数をはるかに超えました。

本当に恐ろしいの一言です。

犠牲となった方々におきましては心からお悔やみ申し上げます。

さて、100年から150年周期で発生する南海トラフ地震！

あと約30年から約50年以内に必ず起きると言われ、ここ数年では国や県・名張市でも緊張感が増し各課・防災対策部での対策が講じられています。

また、国の「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」が南海トラフ地震の発生の可能性が相対的に高まったとし令和元年5月31日に修正され、気象庁では「南海トラフ地震臨時情報」「南海トラフ地震関連解説情報」の提供を開始しました。

情報の種類と発表条件

情報名	キーワード	情報発表条件
南海トラフ地震臨時情報 ※防災対応がとりやすいよう キーワードを付して情報発表 します	(調査中)	観測された異常な現象が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査を開始した場合、または調査を継続している場合
	(巨大地震警戒)	巨大地震の発生に警戒が必要な場合 ※南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生したと評価した場合
	(巨大地震注意)	巨大地震の発生に注意が必要な場合 ※南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界においてM7.0以上M8.0未満の地震や通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価した場合等
	(調査終了)	(巨大地震警戒)、(巨大地震注意)のいずれにも当てはまらない現象と評価した場合
南海トラフ地震関連解説情報	○観測された異常な現象の調査結果を発表した後の状況の推移等を発表する場合 ○「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会」の定例会合における調査結果を発表する場合(ただし臨時情報を発表する場合を除く)	

この情報が発表された時の防災対策は本誌裏誌面にて掲載しております。

これらの情報は気象庁ホームページからご覧いただけます。

(<https://www.data.jma.go.jp/svd/eeew/data/nteq/index.html>)

(防犯防災部会・地域自主防災隊一同)

情報発表時の防災対応

情報が発表されたら、自治体の呼びかけに従い、巨大地震の発生に備えて以下のような防災対応をとってください

日頃からの地震への備えの再確認の例

- ・避難場所・避難経路の確認
- ・家族との安否確認手段の確認
- ・家具の固定の確認
- ・非常持出品の確認

できるだけ安全な防災行動の例

- ・高いところに物を置かない
- ・屋内のできるだけ安全な場所で生活
- ・すぐに避難できる準備(非常持出品等)
- ・危険なところにできるだけ近づかない など

「南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン(第1版)」の概要(内閣府)より

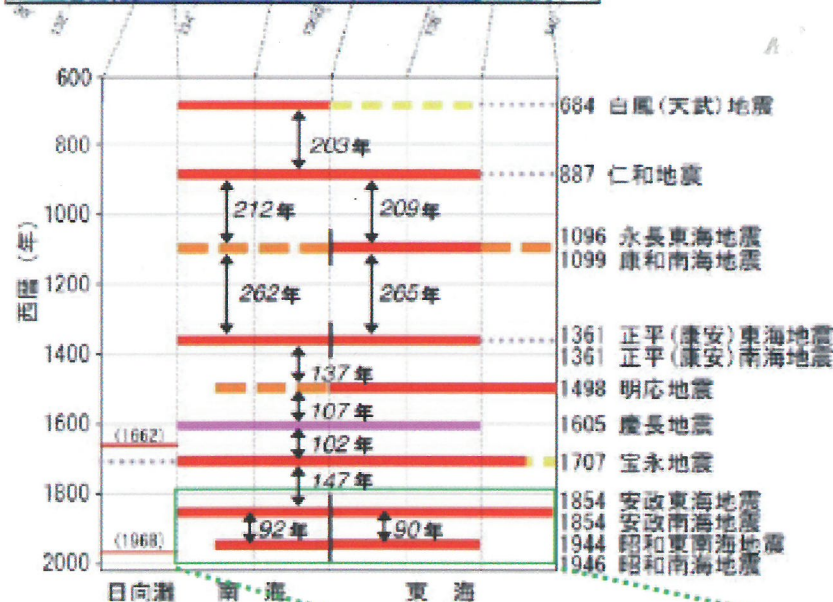
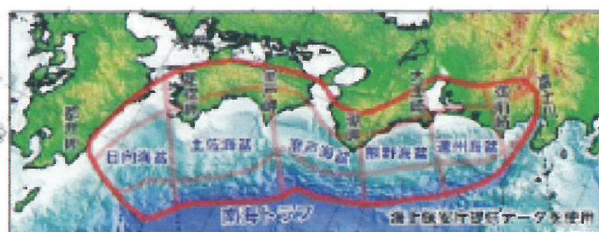
※お住まいの地域によっては、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された際は避難が必要な場合があります。情報発表時に自治体からの呼びかけに従った防災対応をとってください。

南海トラフ地震とは

○南海トラフ地震は、駿河湾から日向灘沖にかけてのプレート境界を震源域として概ね100～150年間隔で繰り返し発生してきた大規模地震です。

○過去の事例では、南海トラフの東側で大規模地震が発生した後、約32時間後や約2年後に西側でも大規模地震が発生した事例が知られています。

○昭和東南海地震及び昭和南海地震が起きてから70年以上が経過しており、南海トラフにおける次の大規模地震発生の可能性が高まっています。



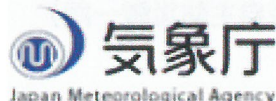
※最近の調査では、30時間後との結果も報告されている。

南海トラフ沿いの異常な現象への防災対応のあり方について(報告)(中央防災会議)より

気象庁ホームページ

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nteq/index.html>

国土交通省



○お問い合わせ先

気象庁地震火山部地震予知情報課 03-3212-8341 (内線 4566)